

頸部リンパ節の病気

もともと頸部には多くのリンパ節が存在します。なかには健康な状態でも首を触るとわかるものもあります。したがって、触ってわかるものがすべて異常とは限りません。

頸部リンパ節が腫れる病気としては、炎症によるもの、腫瘍に関連するものに大別して考えます。いずれもリンパ節自体の病気と、ノドや鼻などに元になる病気があり、それに関連して腫れる状態があります。

I リンパ節の炎症性疾患

リンパ節の炎症にはウイルスや細菌が原因となる急性リンパ節炎が頻度が高く、代表的な疾患です。また、急性咽頭炎・喉頭炎、急性扁桃炎、急性副鼻腔炎、唾液腺の急性炎症、あるいは虫歯があり、頸部のリンパ節がそれに反応して炎症を起こして腫れることもあります。

このようなリンパ節の炎症性疾患の場合は、痛みを伴って、比較的急激に腫大し、抗菌薬や消炎鎮痛薬の投与、および原因疾患がある場合にはその治療を同時に行うことによって1～2週間程度の経過で良くなる場合が殆どです。

この他、伝染性単核球症、亜急性壊死性リンパ節炎、まれに結核性リンパ節炎も見られます。

II リンパ節の腫瘍性疾患

リンパ節の腫瘍は悪性リンパ腫のようにリンパ節自体の腫瘍と、元になる腫瘍からのリンパ節転移とが考えられます。

悪性リンパ腫は血液の中のリンパ球が悪性化する疾患です。もともとリンパ節はリンパ組織（すなわちリンパ球）の集合体ですので、頸部のリンパ節に初発することがあるわけです。また、耳鼻科領域には扁桃などリンパ組織がありますので、その部位に初発した悪性リンパ腫、鼻腔や副鼻腔に発生した悪性リンパ腫の関連で頸部リンパ節にも病巣が広がった状態として発見される場合もあります。病巣が頸部だけに限局しているのか、他の部位に及んでいるのかをまず診断した上で、抗がん剤などによる治療を行います。

次に、咽頭癌、喉頭癌、舌癌などの口腔の癌、あるいは鼻・副鼻腔の癌、さらに唾液腺や甲状腺の癌が頸部リンパ節に転移してリンパ節が腫脹するリンパ節転移が考えられます。この場合はもとの癌に対する治療の一部として転移リンパ節の治療も行われます。